

桑原田町の歴史

平成一九年、村を通る市道の拡幅工事中に弥生時代から平安時代の遺跡が発見され、発掘調査が行われました。そして弥生時代の円形竪穴住居跡や、古墳時代の方形竪穴住居跡、また奈良時代や平安時代の掘立柱跡などが見つかり、弥生土器・土師器（はじき）・須恵器（すえき）・めっきした耳環（耳飾り）などが出土しました。

特に、弥生時代の竪穴住居の屋内高床部に、土器づくり用粘土の塊が置かれた状態で発見されたことは極めて珍しく、全国でも数例しか見つかっていないとのことでした。

この遺跡は発見された村の字（あざ）をとって、弥生時代中期の中条垣内（なかじょうかきうち）遺跡として加西市に登録されました。

弥生時代中期といえば、今から約二千年前。当時すでに私達の村が存在していた事は驚きです。

奈良時代、東大寺の大仏が建立されましたが、東大寺は伽藍の維持に莫大な費用がかかることから、開墾田を領園として管理していました。管理地は東国、北陸地方に多くあり、私達の周辺では播磨国西河合郷（にしかわいごう）（現小野市）に一九町五反の領園があり、私達の村にも二町の領園があったことが記録として残っています。

それは、康平（こうへい）二年（一〇五九年）七月二〇日「播磨国東大寺領畠注進状」に記載されている「西郡阿居郷（にしごおりあいのごう）桑原田（くわはらた）畠二町」で私達の村、桑原田の原点といえます。

しかしこの時代、私達の村のみが存在していたのではないはずです。私達の村の周りにはどんな村があったのだろう。少し加西の歴史について調べてみました。

それによると、現在存在する多くの村はあ

るものの、記録として残るのは古墳のある玉岡、それと玉野、鴨谷、横田で数多くありません。

また、村の名前の由来を調べて見ると、字（じ）の意味から養蚕をしていて桑の木を植えていたから、桑原田の地名ができたと推察され、村の字（あざ）にも「桑畑ケ」があります。

聖徳太子十七条の憲法の第十六条に、

「春から秋までは農耕・養蚕などに力をつくすべき時である。人民が農耕をしなければ何を食べていけばよいのか、養蚕がなされなければ何を着たらよいというのか」（現代語訳）

今という、産業振興の一文で、農耕と養蚕が推奨されていたと考えられます。

養蚕といえば絹。ヨーロッパと中国をつなぐシルクロードが浮かびます。私達の村が中国からシルクロードを経てローマ帝国と結びついていると考えると、遠い歴史がなにか身近に感じられます。

一〇五九年といえば、今年から遡ること九五〇年、あと五〇年で千年の記念すべき時を迎えます。一〇五九年に村が存在していたかには、村の発足はもともと前のことでしょう。今回の中条垣内遺跡に見るように、二千年前かも知れません。しかしそれを確かめることができない今、一〇五九年を仮の決め事として、この年を桑原田村発足の年としたらどうでしょう。そうして、五〇年後の二〇五九年、千年の祝いを催しましょう。

また、市内それぞれの町が、自分達の村の歴史を調べ同様の千年の祝いを開催できれば嬉しいことです。その中から加西市千年の催しができれば、町おこし村おこしになるのではないのでしょうか。

私はその時この世に生きていないでしょう。五〇年といえはまだまだ先のことももしれない。しかし準備を始めても遅くはないだろう。多くの色とりどり旗を掲げ、各村が名前の由

来となった産業や食品や芸能を披露し、千年を祝おうではありませんか。

先人を敬い先人がしたように、私達も後世に誇れる村作りを目指さなければなりません。そうして私達は、この歴史ある地域を大切に守り育てていかなければなりません。

○九年二月